

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	30
都道府県名	和歌山県

【 □ 】  
重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	海南市立第一中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	15
生徒数	50	48	45	2	145	

研究の概要

1 研究主題

指導方法の工夫改善による学力向上をめざして - 少人数指導と評価を中心に -

2 研究主題設定の趣旨

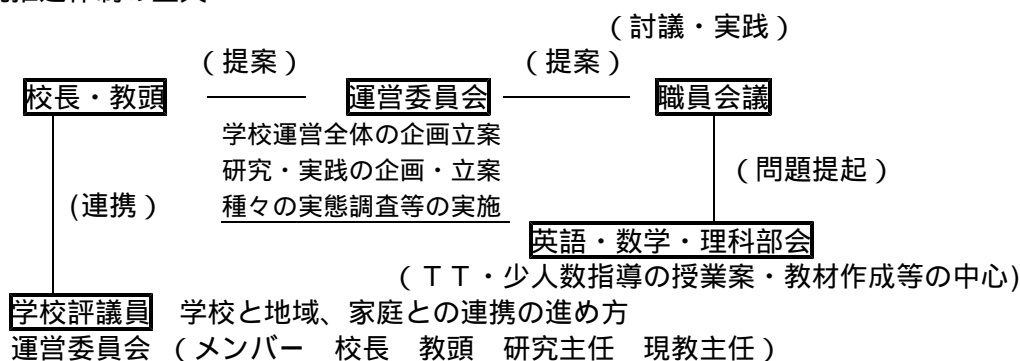
従来から個に応じた指導、個を生かす指導のあり方について、TT、選択履修幅の拡大等をおして、指導方法の工夫改善についての研究を深め、実践に取り組んできた。

昨年度、フロンティアスクールの指定をうけるなかで、特にTT、少人数指導を中心に、教科指導において、どう基礎・基本の徹底を図っていくか。また、発展的学習をどう取り入れていくか、を中心に研究と実践に取り組んできた。そのなかで習熟度別指導をふくめ、個に応じた指導方法(学習形態)の工夫改善に取り組み、一定の成果も得ることができた。

2年目にあたる本年度、前年度の成果をもとに、引き続き習熟度別少人数指導のあり方について研究と実践を深めるとともに、「指導と評価の一体化」における評価を生かした指導方法の工夫改善を図っていきたいと考え、上記の研究主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



【工夫点】

教材作成は、英語・数学・理科(いずれの教科も複数の教員配当がある)部会が中心となり作成し実際の授業に活用し、検証していく。

(2) 研究の実際

英語科での「発展的な教材」を取り入れた授業例

単元名 「外国へ旅立とう」

この単元は、リスニング教材で、飛行機で海外旅行する際の手続き等について学ぶ。発展教材を使用して、簡単な搭乗及び入国手続きの模擬体験ができるようにする。

教科書： 外国に旅立って最初に耳にし、使うことになる空港や機内での英語を扱う

発展： 生徒が実際に、簡単な搭乗及び入国手続き、模擬体験ができる教材とそれを使用した授業  
教材：ワークシート

自分の行きたい国、渡航目的、滞在期間などを決める。	T 1 は活動内容の指示 A L T は未習の国名の読み方 T 2 は生徒のサポート
空港で搭乗ゲートのアナウンスを聞いて、その場に行く 現地に到着して入国手続きというかたちで、3人の教師が 国別に別れてインタビューテストを行う。	発展教材 「ワークシート」

### 3年 選択教科 英語という教科を指定し、その中のコース選択における教材と授業内容

初級コース	教示	パターン別リスニングテスト 文法的内容を中心としたプリント学習
	授業	学習は前向きで、積極的に質問し、よい雰囲気。 基礎的な内容が中心なので、自分のつまづきに気づき、理解が深まる。
標準コース	教材	リスニング 長文読解 1, 2年の内容の復習プリント
	授業	生徒相互間で教えあったりしながら自分のペースで学習に取り組み、苦手な部分を克服したり、知識をより確実なものとしている。
発展コース	教材	リスニング かなり長い英語を聞いてポイントを聞き取る問題。リスニング力をたかめるために dictation をおこなっている。 長文読解 英字新聞の記事、児童文学、英検3級の長文を用いて読解。 文法事項の説明も加える。単語、イディオムを学ぶ (英検用問題集から、単語、イディオムを学ぶ)
	授業	人数も少なく意欲のある生徒たちが集まっているので、知識も豊富。今後は学習したことを定着させる工夫もしていきたい。

### 数学科

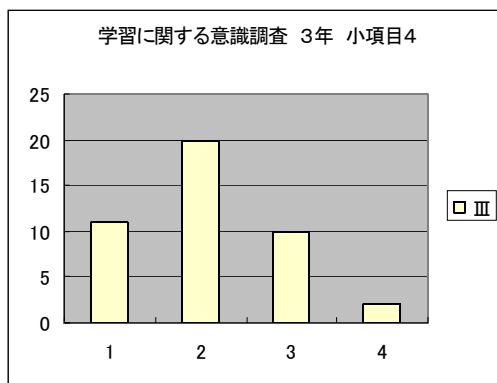
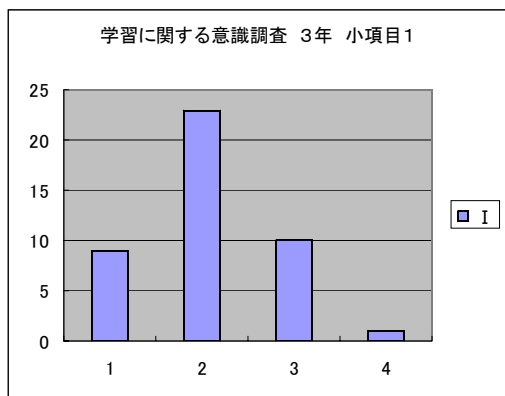
初級コース	基礎的なところを教材化したプリントで復習。「確率」と「一次関数」がわかりにくい、という生徒の声にこたえて、特にていねいに説明する。 定期テスト前には対策プリントを作成し、計算問題を中心に練習する。
標準コース	高校入試の基礎問題を中心にした教材で復習。自分で解いて答えあわしをし、わからないところを質問する。 定期テスト前には対策プリントを作成し、計算問題と教科書に出てくるような応用問題を練習する。
発展コース	高校入試の標準問題を中心にした教材で復習。 定期テスト前には入試問題を中心にした対策プリントを作成し練習する。

(3) 研究の成果と課題

学習の質は高まったか

必修教科における発展教材の取り扱いについては授業展開の方法と密接な関係がある。本校では、T・T や A・L・Tにより生徒にたいしてのサポート体制を充実し、発展教材の内容が十分に身につくようにする。

この3学年の生徒は、一般的におとなしく、真面目に学習に取り組む。自己表現力では弱い面があったが、コミュニケーションを能力を高める発展教材を活用することによりコミュニケーション活動が活発になった。



学習内容がよくわかるか

自分の力で学習問題を解決しようとしているか

- |   |                 |
|---|-----------------|
| 1 | よくあてはまる         |
| 2 | どちらかといえばあてはまる   |
| 3 | どちらかといえばあてはまらない |
| 4 | あてはまらない         |

(4) 研究成果の普及と方策

年次ごとのまとめを冊子にし、配布する。(平成14・15・16年度)

平成16年度の2学期に研究発表会を行う予定(平成16年度)

(時期:平成16年2学期 場所:海南市立第一中学校 テーマ:学力向上をめざした諸取組の研究と成果 対象:県下一円の学校教育関係者)

保護者に対しては「学校だより」を通して取組状況を逐次知らせていく。

現在作成中の本校のHPに掲載の予定

【新規校・継続校】

15年度からの新規校

14年度からの継続校

【学校規模】

3学級以下

4～6学級

7～9学級

10～12学級

13～15学級

16学級以上

【指導体制】

少人数指導  
その他

T・Tによる指導

【研究教科】

国語  
外国語  
保健体育

社会  
音楽  
その他

数学  
美術

理科  
技術・家庭

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有

無

**【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】**

個に応じた指導を行うためには個を知らなければできない。至極当然のことであるが、これまでの取組の中ではなかなかそれを具体的な授業構成にまで生かされていなかった。本校では、すべての教職員が共通理解を図りながら一人一人の生徒を見つめ、その実態に応じて、時には少人数学習を展開し、時にはチームティーチングを行うという弾力的な授業方法を行った。生徒は教職員の温かい眼差しの中で、のびのびと授業に参加し、自主的な学習活動を展開していた。